宮城県高等学校教職員組合

元気高教組 情報 FAX版

平成２９年９月２１日(木)
宮城県高等学校・障害児学校教職員組合
TEL:022-234-1335 FAX:022-273-1767
Mail：miyagi-kokyoso@mb7.seikyou.ne.jp
http://miyagikokyoso.jimdo.com/

全職員配布

「新たな職員評価制度」について考える連続講座 No７

学校での教育活動は、その多くがチームワークです。その結果を評価するというのなら、その結果に関わった教員全員を評価しなければおかしいですね。

チームワークで頑張った場合に、いったい誰が評価される？

（１）かかわった全員が評価の対象！

例えば「３年生の進路結果が例年より良かった」のなら、その３年生の指導に関わった教員はみんな高く評価されなければおかしいはずです。もっと視野を広げて考えてみれば、３年生の進路結果が良かったのは、１年生の時からの指導が良かったからかも知れません。そうだとすれば、既に転勤した教員も含めて、３年間に関わった教員まで広げて評価の対象にしなければおかしいですね。そうでなくては公平な評価とは言えないはずです。

（２）リーダーだけが評価されていいのか？

しかし実際は、そういう話にはならないでしょう。「３年生の進路結果が例年より良かった」ことの評価は、おそらく３学年主任や進路指導部長だけになるでしょう。せいぜい３年生の各クラス担任が評価されるということはあっても、３年生に関わった多くの教員が広く評価されることはないと思われます。まして転勤していった教員の指導について転勤先の学校で評価されることもありません。そういう意味でも、「頑張った人が必ず報われる」制度にはなっていないのです。

このことは、逆に「３年生の進路結果が例年より悪かった」ことの責任を３学年主任や進路指導部長だけに負わせることに結び付く、ということを考えてみてもわかると思います。チームワークでやっている仕事の評価をリーダーだけに結び付けることは、良くも悪くも不公平なのです。